

「自己資本比率について」

資産	負債
	純資産 (自己資本)

上記の貸借対照表は以前にも説明したとおり、
資金の運用状態を表す資産と、資金の調達源泉を表す負債（他人負債）と純資産（自己資本）で構成されています。

これらのバランスをみることによって、

会社が資金的に余裕をもって経営しているかどうかわかります。

財務上の健全性、危険度合がこの貸借対照表で診断できるのです。

財務上の健全性を調べるのに代表的な指標があります。

それが「自己資本比率」です。

これは**負債・純資産の合計に占める自己資本の割合**を表します。

式で表すと

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{純資産}}{\text{総資本（純資産 + 負債）}}$$

となります。

この式で表した**自己資本比率が高ければ健全性が高い**ことになり、
金融機関からの資金調達力も高くなります。

一般的に**収益性が良ければ自己資本比率も上昇**します。

しかし、企業が収益性を増やすことばかりに目を奪われてしまって負債（他人資本）と純資産（自己資本）のバランスを崩すことになると資産構成などのバランスも崩れてしまい、収益性自体の低下を招く恐れが出てくる可能性があります。

ですから、他人資本と自己資本のバランスを見ながら、そして**資産構成とのバランスも保ちながら収益性を向上させていく**ことが重要になるのです。

ここで1つ注意しなければならないことがあります。

それは、自己資本比率が高いことは非常に良いことなのですが裏を返せば**経営自体が保守的になって、積極的な経営戦略が十分に行われていない**場合が考えられるのです。

こうした企業では、**成長性が過去の実績からどのような推移になっているのか**のチェックが必要となります。

以前にも自己資本については触れていますが、**自己資本は企業の体力を測れる部分**です。

その体力が今は大丈夫だとしても、バランスを考えずに一方だけを見て経営を行うとどうなるか。

人間で例えるならば、健康食のみを食べ続けるだけの毎日だったらどうなるでしょう。体のバランスは崩れてしまいますよね。運動や睡眠があってこそ体力が保ち続けられるのであり、企業も同じで一つの要素だけが良ければ問題が無いということではなく、**全体のバランスを維持しながら向上していく必要がある**のです。

収益性と財務の健全性がひとつとなることで企業が発展していくことになるのです。